

Next TV Symposium Special ~ supported by OLYMPUS ~

日時 9月21日(水) 19:00-20:00

開催場所 オンライン

Program

ESDにおけるRDIによるhigh spatial resolution効果の有効性 (EVIS LUCERA ELITEからX1への深化)

-上部消化管疾患に対する酸分泌抑制剤の意義-

座長 村上 和成 先生 大分大学医学部 消化器内科学講座 教授

演者 山口 直之 先生 長崎大学病院 消化器内科(光学医療診療部) 准教授

食道表在癌に対するESDは全国的に普及してきており、その短期成績は良好であることが分かってきているものの、胃ESDと比較すると治療難易度が高く、穿孔を来すと緊張性気胸・縦隔炎により致命的となることもあり、治療riskが高いことが時として問題となる。

そのような食道ESDにおいて、OLYMPUS社製の新世代内視鏡システムであるEVIS X1に搭載されているRDI (Red Dichromatic Imaging)モードが非常に有用である。このRDIモードは、ESD施行時の出血部位の視認性が向上することは広く知られているが、このRDIモードを粘膜下層剝離時に常用することで、空間分解能(spatial resolution)が向上し、筋層の位置を把握しやすくなり、より安全なESDが可能になると考えている。そこで今回、食道ESDにおいてRDIモードによる空間分解能向上効果と偶発症としてもう一つの大きな課題である術後狭窄に対する周術期管理の現状も含めて概説する。

次に、本邦では近年心疾患や脳血管障害の罹患率は増加の一途を辿っており、低用量アスピリン(LDA)を中心とした抗血栓薬の内服患者数も増加傾向で、2015年に約500万人に達している。今後、さらなる超高齢社会の到来に伴い、2030年には2500万人に達するとの推計もされており、LDAによる消化管粘膜傷害に対する予防が極めて重要となる。

LDA粘膜傷害に伴う消化管出血発症率は約0.4%/年であり、LDAによる心筋梗塞予防効果の約0.2%/年と比較し高値であるため、患者のbenefit向上のためには、可能な限り消化管出血リスクを低く抑えることが重要である。

そのLDAによる消化性潰瘍の再発予防および治療には、胃内pH4 HTR(holding time ratio)を60%以上に保つ必要があり、エソメプラゾールは20mg(保険適応量)においてpH4 HTR:62%と60%以上を保つことが可能で、その有用性について概説する。

当日は、ご施設名、ご芳名のご記帳をお願い申し上げます。

ご記帳いただいたご施設名、ご芳名は医薬品および医学薬学に関する情報提供のために利用させていただくことがございます。何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主催: アストラゼネカ株式会社 協力: オリンパスマーケティング株式会社

Next TV Symposium Special

～ supported by OLYMPUS ～

お申込み期間

2022年9月21日 19時59分まで

参加申込方法

URLかQRコードいずれかの方法でお申込みお願いいたします。

URL

QRコード

<https://www.medicaltown.net/220921>



上記URLからサイトにアクセス

QRコードを読み取る

ご登録

メールアドレスは正確にご入力ください。
参加お申込登録後、受付完了メールをお送りします。届かない場合は、受付エラーとなります。
olympus_academy@ot.olympus.co.jpよりメールが配信されます。
※メールアドレスの誤入力、迷惑メール設定等により受信が確認できないケースが報告されておりますのでご注意ください。

登録完了メール

- 9月20日までに申込みいただいた方
受付完了メール、または9月21日にお送りするURLご案内メールよりご入場ください。
- 9月21日にお申込みいただいた方
登録完了メールに記載されたWEBご参加用URLよりご入場ください。

Next TV Symposium Special ご参加

講演中の録音・録画・撮影は、固く禁止させていただいておりますので、ご承知おきください。